

## 研究計画書

ゼミ名	拓植ゼミⅡ	チーム名	乾杯は日本酒で
タイトル	若者の日本酒離れ		
テーマ群	e) 産業・企業      g) その他		
メンバー	濱崎 将大   廣澤 涼   秋山 恵里奈   岡崎 瑛樹   岡本 直大 谷口 沙紀   中村 真澄   浜口 友彰   藤原 浩貢   宮本 亘 山本 亜由美		
研究計画内容	<p>[研究背景]</p> <p>2013年12月に「和食；日本人の伝統的な食文化」がユネスコ無形文化遺産に登録された。海外では和食が注目され、日本酒にも注目が集まっている。</p> <p>その一方で、近年の日本国内では日本酒離れが進み、日本酒の消費量が減少している。飲酒習慣に関する調査によると、若者（20～29歳）の飲酒習慣の割合が特に少ない（国税庁、2015）。また先行研究にて日本酒は若者から敬遠される傾向にあり、これが日本酒離れの一つの要因になっていることが解明されている（五島、2012）。そこで、本研究では「どうすれば若者の日本酒離れを止めることができるのか」をテーマに研究を行う。この問題を研究することは、長期低迷している日本酒業界に対して解決の手がかりを提供するという産業振興の面で意義があると考えられる。また、神戸には全国有数の酒どころである灘があり、この研究により地域活性化への貢献につながる提案ができると考える。</p> <p>[研究目的]</p> <p>国内消費の減少に歯止めをかけるためには、日本酒離れが著しい若者の消費量を増やすことが重要であると考えられる。そこで、独自のアンケートを行い、それによって得られたデータの分析を行い、若者の日本酒に対する選好を明らかにする。そして、その結果に基づき、若者の好む製品を提案することで、若者の日本酒消費量を増加させる方法を提案する。</p> <p>[研究方法]</p> <p>どうすれば若者の日本酒離れを止めることができるかを明らかにするために若者がどのようなお酒を好むのかを考える。分析方法としてはベスト・ワースト・スケーリングを検討している。ベスト・ワースト・スケーリングを用いることで、若者の日本酒離れとなっている要因のうち、どの要因が特に若者の日本酒離れを止めるうえで重要とされるかを明らかにすることができる。</p>		